

A-GIRL'S

THE ESSENCE OF LUXURY

85年以上続く老舗ファクトリーを背景に、
究極の着心地の良さを求めた素材を提供し続ける
テキスタイルメーカー



Full of love and curiosity

Aim for the top

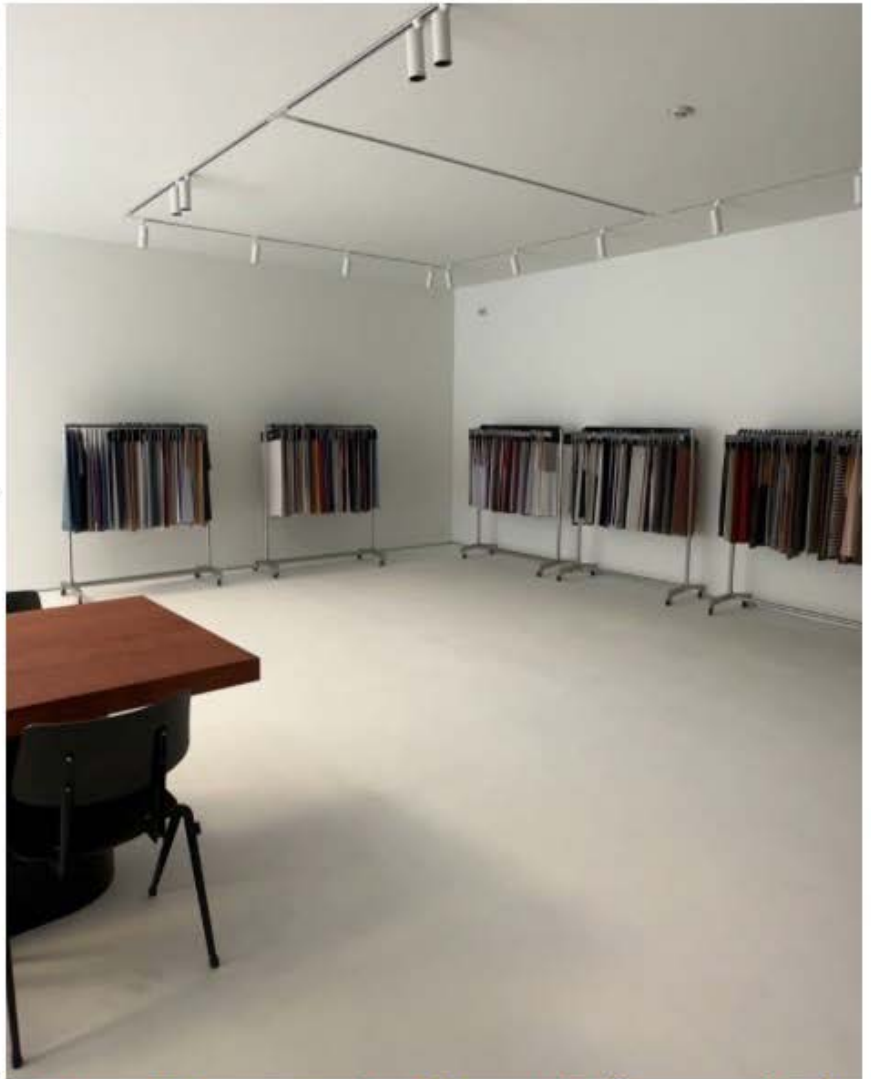
~A - GIRLS~

K i n d a i & T o i n

私達は和歌山の三葛にあるA - GIRLSに訪れた。A - GIRLSは85年以上続く、老舗ファクトリーを背景に、究極の着心地の良さを求めた素材を提供し続けているテキスタイルメーカーである。

A - GIRLSは「時代を担う繊維産業企業100選」に選ばれており、海外でも活躍するなど幅広く事業を展開している。

会長の山下雅生さんは好奇心を持つことで、新しい発見と発展があると語っており消費者の気持ちになってTOP (Top Of Pyramid) を目指している。



「インタビュー内容」

Q お店が85年以上続いた秘訣はなんですか？

A 親が長年続けてきた会社を止めるわけにはいかなく、新たな自分の形で継承して行こうと思ったため。

Q 社内の雰囲気はどんな感じですか？

A 服が好きの人を採用しており、同じ気持ちで一丸となっているから一緒になって楽しい日々を過ごしている。



Q 将来の事業の予定は？

A 世界の富裕層に売り、マーケットは地球規模で考える。付加価値を認めてくれるので関西圏より関東圏で売る。

Q A - GIRLSの名前の由来はなんですか？

A 「A」はNo.1。「A (エー)」はエエ女性に通じ、催事名簿は常に「A」より始まるから。

Q 海外に行つて学んだことはなんですか？

A 情報収集をするために海外に行つた。世界から日本を見たら日本の素晴らしさがよくわかる。例えば伝統工芸品など。海外の人と日本人では見方が違うから勉強になる。

Q 山下さんが仕事に対して感じるやりがいを見せてください

A 世界の人々に喜びと感動を与えられること



「服ができるまで」

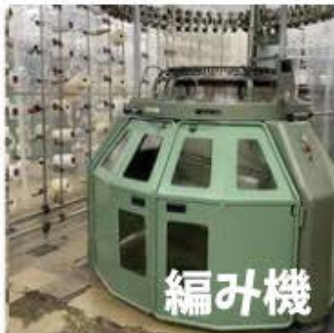
A-GIRLSではこの綿花を使って特別な編み機に入れ、生幾（きばた）で生地を作り、染物屋に発送し服を完成させる。生幾とは糸を製編機織して得られる面状の布で、染色・仕上げ加工される前の布を指す。

A-GIRLSでは吊機といわれる旧式の機械を使用した、世界でも和歌山でしか編むことのできない希少な吊り裏毛素材をボディに使用している、少量しか生産できないが、ふくらみのある独特な風合いを持っている。

実際に私達も作られた生地を触ったが普段感じることができない新鮮な感触で買った人を虜にさせるようなものであった。



綿花



編み機



生幾



完成



「ニット産業への思い」

グラフの通り、1990年代以降、生地の輸出が首位だったものの、新型コロナウイルスの影響などによって、2020年では生地の輸出が減少してしまった。これだけでなく新型コロナウイルスによって衣料品等の国内市場規模、国内生産量が減少など大きな影響を受けた物も多い。また、国内における繊維工業の事業所数、就職者数も減ってきている。そんな中、A-GIRLSはこれからの考えを日本だけでなく世界全体を対象としていて、和歌山県にあるニット産業の素晴らしさをまず、地元の人に知ってもらいたいと考えている。この機会に私たちが得た知識、A-GIRLSの情熱を広めることで地元の産業を守っていくことができるかもしれない。



※ 1. 原料：綿、羊毛、絹、化学繊維、再生繊維、平織成繊維等。
 ※ 2. その他の製品：フェルト、手織物、絨毯、工業用繊維製品、毛布、ベッドリネン等。
 資料：Global Trade Atlas

「感想と今後に向けて」

ファッションについての貴重なお話を聞くことで繊維産業がこんなにも素晴らしい、世界で活躍していることを知った。この産業を知らない人にニットの魅力や、和歌山の技術力を伝えるためにも、地元だけではなく世界に目を向けることが大切だと学んだ。山下さんの話を聞いてると仕事に対しての熱意がとても伝わった。その熱意をこの新聞を読んで読者の皆様に伝えられたらと思う。

